

2005. 8月号

# 都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



## 【目次】

- ・創立20周年記念講演会・懇親会の開催 P 1
- ・東京の水辺の魅力と観光振興 P 2～3
- ・財団の活動状況 P 4
- ・まちづくり月間シンポジウムの開催について (結果報告) P 5
- ・「品川駅周辺における今後のまちづくりの  
進め方について」の中間まとめ P 6～7
- ・東京ビックサイトでのイベントに財団ブースを出展 P 8

## 《ハイライト》

- ・東京の水辺の魅力と  
観光振興
- ・「品川駅周辺における今後の  
まちづくりの進め方  
について」の中間まとめ

## § 創立20周年記念講演会・懇親会の開催

去る7月29日(土)、当機構の創立20周年を迎え、記念講演会及び懇親会を開催いたしました。

記念講演会は、霞ヶ関プラザホールにおいて、伊藤 滋先生を講師にお願いして「都市再生のあゆみ」と題して実施しました。先生からは、約250名の受講者に対して、私小説を交えながら都市再生本部の発足時の状況と今日までの活動の経緯等について掘下げて説明いただきました。素晴らしい講演内容であり、出席者全員が大きな示唆を得ることができたものと確信いたします。

講演会に引き続き、同ビル東海クラブにおいて、記念懇親会を開催いたしました。懇親会は、まず主催者を代表して松原理事長のお礼の挨拶に引き続き、竹歳都市・地方整備局長に来賓を代表して祝辞をいただき、牧野内閣総理大臣補佐官の乾杯のご発声により歓談に移りました。懇親会には、国土交通省の皆様をはじめ、機構の役員・賛助会員、OB等を含めて約250名の皆様に出席いただき、20年間の思い出を語り合っていました。話が尽きない懇談の場も盛会裏に終えることができました。

本講演会及び懇親会は、創立20周年の記念行事として時宜を得たものであり、有意義なものであったと考えます。

なお、懇親会の終了後には出席者全員に機構の20周年特集号「都市・み・ら・い (Vol. 52)」を記念品として配布いたしました。





## § 東京の水辺の魅力と観光振興

### － ロッテルダム国際建築ビエンナーレに関連して－

#### 1 東京都における観光施策

昨年度、東京には年間約420万人の外国人観光客が訪れましたが、これに伴う都内における生産波及効果は約5,329億円、雇用効果は約3万3千人と推計されています（「平成16年度東京都観光客数等実態調査」より）。また世界観光機関（WTO）の将来推計によると、東アジア・太平洋地域における外国人観光客受入数は年平均7.7%の割合で増加すると予測されています。東京都では、今後、飛躍的な成長が見込まれ、多くの産業に経済波及効果と雇用創出効果をもたらす観光を重要な産業と位置づけ、観光施策を推進しています。

具体的な施策としては、①シティセールスの積極的展開をはじめとする「世界に向けての東京の魅力の発信」、②観光まちづくりの推進などを通じた「観光資源の開発」、③観光案内標識の設置や観光情報センターの運営による「受け入れ体制の整備」という3つの柱を基本に、外国人観光客の誘致、いわゆるインバウンドに重点を置いた取組みを進めています。

#### 2 観光資源としての東京の水辺

平成17年5月よりオランダ・ロッテルダムにおいて「第2回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ」が、約3か月間にわたって開催されました。今回のビエンナーレでは「The Flood」というテーマのもと、世界の水辺都市が歴史的にどのように形成されたのか、アムステルダム、ベニス、東京の3都市に焦点を当てた比較展示が開催されました。ロッテルダム市からの依頼に応じ、東京都も後援の立場で展示に協力しましたが、水辺の観光資源としての新たな活用が注目を集める中で開催された今回の展示会は、東京の水辺の持つポテンシャルの重要性を改めて再確認する上で有意義な機会であったと考えます。

アムステルダム、ベニス、東京の3都市は、水との戦いを克服することにより形成され、運河・掘割を用いた舟運が効果的に機能する「内港システム」を有する点で、都市の形成過程が極めて類似しています。

我が国では、ここ数年の間に、住む人が誇れ、旅行者が何度でも訪れたいような活力ある「まち」を目指す「観光まちづくり」の考え方が急速に普及しています。その一方で、アムステルダムとベニスの両都市が、20世紀以降も引き続き、運河という水辺環境を生活空間と観光資源の二つの面において調和させ活用してきた事実は、今後の東京の観光施策の取組みに対しても大きな示唆を与えるものです。

東京が江戸と呼ばれた時代、隅田川などの水辺は、物流としての舟運の繁栄に加え、寺社や橋詰周辺の賑わいとも相俟って、都市の内外から多くの人々を引きつける有数の観光拠点であったと言われています。

東京都では、「東京の水辺空間の魅力向上」を平成17年度の重点事業に位置づけ、隅田川や運河などを観光資源として活用するための取組みを進めることとしています。一部の地域では、規制緩和の推進により運河の賑わいを創出する「運河ルネッサンス」の取組みが率先的に進められていますが、今後、中長期的な視点からも、景観、回遊性、水質の向上など、東京を魅力ある都市空間として再生するための取組みを、観光振興を一つの基軸として総合的に展開していきます。

#### 3 都市の持つ総合力としての観光

第2回ロッテルダム国際建築ビエンナーレでは、このほかに、観光をテーマとした展示とシンポジウムが企画されました。観光に関する経済効果等がデータで紹介されるとともに、世界の水辺都市における観光資源の活用と利益との相関などについて研究報告が行われました。都市計画を主な対象とする国際建築ビエンナーレにおいて、水辺の活用と融合する形で「観光」がメインテーマの一つとし



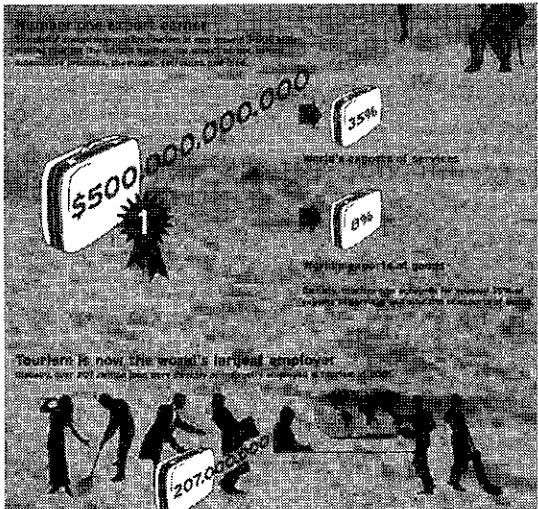
て取り上げられたことは、都市づくりにおいて観光の視点が不可欠なものとなっている最近の動きを象徴する点で特筆すべきものでした。

「観光」はまさに都市の総合力を示す指標であり、今後も引き続き、多くのご理解とご支援を得ながら、東京の持つポテンシャルを十分に活かした観光振興施策を推進していきます。

(寄稿：東京都観光部企画課)



水辺の魅力を活かした住宅の建設が続く  
(アムステルダム市ボルネオ地区)



観光による経済波及効果を示すチャート



ピエンナーレの会場風景



## § 財団の活動状況

| 日     | 7月                                 | 日     | 8月                                   |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1     | 品川新拠点研究会：<br>国交省（都市整備局）宛研究成果提言     | 1     | 品川新拠点研究会：<br>千葉大学からプレゼンテーション         |
| 3     | 近畿まちづくりリレーシンポジウム                   | 2     | 日本PFI協会（植田専務理事）と連携方策を協議              |
| 5     | 富津市まちづくり交付金打合せ                     | 3     | 富津市まちづくり交付金打合せ                       |
| 7     | 中国地方まちづくりシンポジウム                    | 4     | 神奈川県庁と広範に都市開発関連協議                    |
| 7     | 「普天間飛行場跡地利用基本方針策定調査」<br>WG会議（第23回） | 4     | 東久留米市地域産業振興委員会（第2回）                  |
| 8     | 横浜返還施設跡地委員会（第2回）                   | 4     | 「高知駅拠点街区開発アイデア募集」説明会                 |
| 8     | 鹿児島市まちづくり交付金活用事業調査打合せ              | 5     | 土地活用モデル大賞 エントリー締め切り                  |
| 12    | 関東まちづくりシンポジウム                      | 9     | 「普天間飛行場跡地利用基本方針策定調査」<br>県民フォーラム（第2回） |
| 12    | 中部まちづくりシンポジウム                      | 17    | 柏市（仮称）旧吉田邸管理運営懇談会                    |
| 12    | 柏市（仮称）旧吉田邸管理運営懇談会                  | 23    | 土地活用モデル大賞 応募締め切り                     |
| 13-15 | 自治体総合フェアに出展（東京ビックサイト）              | 24-26 | 「普天間飛行場跡地利用基本方針策定調査」<br>地域フォーラム      |
| 15    | 土地活用モデル大賞打合せ                       | 25    | 鹿児島市まちづくり<br>交付金活用事業調査第1回ワークショップ     |
| 21    | 東久留米市地域産業振興委員会（第1回）                | 31    | 柏市（仮称）旧吉田邸分科会                        |
| 22    | 富津市まちづくり交付金打合せ                     |       |                                      |
| 22    | 品川新拠点研究会：<br>東京観光財団宛研究成果提言         |       |                                      |
| 25    | 九州観光まちづくりシンポジウム                    |       |                                      |
| 27    | 横浜返還施設跡地委員会（第3回）                   |       |                                      |
| 27    | 品川新拠点研究会：<br>財団会員宛活動成果説明会開催        |       |                                      |
| 28    | 品川新拠点研究会：港区宛研究成果提言                 |       |                                      |
| 28    | 品川新拠点研究会：<br>日本ツーリズム産業団体連合会宛提言     |       |                                      |
| 29    | *創立20周年記念講演会・懇親会                   |       |                                      |

\*印のある項目については、他ページに解説があります。

### 【財団関係諸団体】

#### 《インテリジェントシティ整備推進協議会》

|   |       |    |                                  |
|---|-------|----|----------------------------------|
| 1 | 会員懇談会 | 2  | 17年度環境負荷の小さなIT化都市研究会（第1回）<br>幹事会 |
|   |       | 30 |                                  |

#### 《地方の拠点まちづくり協議会》

|    |      |    |                               |
|----|------|----|-------------------------------|
| 20 | 運営会議 | 26 | 17年度浜松市まちなか魅力化戦略検討調査<br>（第1回） |
|----|------|----|-------------------------------|

#### 《都市地下空間活用研究会》

|    |                            |   |                              |
|----|----------------------------|---|------------------------------|
| 6  | 中心市街地と地下ネットワークのあり方分科会幹事会   | 3 | 中心市街地と地下ネットワークのあり方<br>分科会幹事会 |
| 13 | （仮称）地下ネットワークの整備制度の研究分科会準備会 |   |                              |
| 14 | 大阪分科会拡大幹事会                 |   |                              |
| 19 | 八重洲・京橋・日本橋地区分科会全体幹事会       |   |                              |
| 28 | 八重洲・京橋・日本橋地区分科会全体幹事会       |   |                              |

#### 《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

|   |              |  |  |
|---|--------------|--|--|
| 5 | 第7回技術研究発表委員会 |  |  |
| 7 | 第14回企画運営部会   |  |  |



## § まちづくり月間シンポジウムの開催について (結果報告)

まちづくり月間の一環として6月27日(月)の「北陸まちづくりシンポジウム」を皮切りに6地区で国土交通省地方整備局主催の「地域の個性を活かしたまちづくり」を共通のテーマとしたシンポジウムが開催されました。

シンポジウムは、まず、地域に詳しい学識経験者、まちづくりに関する支援施策を実施している国や関係機関より、基調講演があり、今回のテーマに対する問題提起がなされました。続いて行われたパネルディスカッションでは学識経験者、国、各地方整備局管内市町の首長、まちづくり団体(NPO等)代表者等の色々な主体から地域の個性を活かしたまちづくりの推進のための課題、方策、要望、今後の方向性についての活発な議論が交わされました。

シンポジウム企画から開催まで約1ヶ月足らずだったのにも関わらず、各地方整備局、開催市等の多大な協力をいただきながら、6回で延べ1,190名の参加をいただき、成功裏に終了いたしました。

今回のシンポジウムでの議論を契機として、地域主導による魅力と個性あふれるまちづくりが今後一層行われることを期待しています。

各シンポジウムの出演者は以下の通りです。また、各シンポジウムの概要は紙面の関係でふれておりませんが、簡単な概要をまとめておりますのでご希望の方は事務局までお申し出下さい。

(担当：開発調査部 森田)

### 各シンポジウム出演者一覧

|  |  |
|--|--|
| <p><b>北陸まちづくりシンポジウム</b><br/>                     ●日 時：平成17年6月27日(月) 15:00~17:00<br/>                     ●開催都市：富山県滑川市 ●出席人数：97名<br/>                     ●基調講演・コーディネータ<br/>                     富山国際大学教授 長尾 治明氏</p>  | <p>●パネリスト<br/>                     金沢工業大学教授 森 俊偉氏<br/>                     滑川市駅前商業整備計画策定委員 高木 悦子氏<br/>                     滑川市長 中屋 一博氏<br/>                     国土交通省北陸地方整備局建政部長 橋場 克司氏</p>  |
| <p><b>まちづくりリレーシンポジウム(近畿地整局)</b><br/>                     ●日 時：平成17年7月3日(日) 14:00~16:30<br/>                     ●開催都市：兵庫県尼崎市 ●出席人数：250名<br/>                     ●基調講演・コーディネータ<br/>                     京都府立大学教授 宗田 好史氏</p>  | <p>●パネリスト<br/>                     舞鶴市長 江守 光起氏<br/>                     尼崎市長 白井 文氏<br/>                     せんばGENKIの会代表世話人 辰野 元彦氏<br/>                     国土交通省近畿地方整備局長 藤本 貴也氏</p>   |
| <p><b>中国地方まちづくりシンポジウム</b><br/>                     ●日 時：平成17年7月7日(木) 15:00~17:00<br/>                     ●開催都市：広島県広島市 ●出席人数：170名<br/>                     ●基調講演・コーディネータ<br/>                     広島大学大学院教授 杉恵 頼寧氏</p>   | <p>●パネリスト<br/>                     廿日市市長 山下 三郎氏<br/>                     柳井市長 河内山哲朗氏<br/>                     中国・地域づくり交流会事務局長 浅野ジュン氏<br/>                     国土交通省中国地方整備局建政部長 永井 智哉氏</p>  |
| <p><b>関東まちづくりシンポジウム</b><br/>                     ●日 時：平成17年7月12日(火) 10:00~12:30<br/>                     ●開催都市：埼玉県さいたま市 ●出席人数：425名<br/>                     ●基調講演・コーディネータ<br/>                     日本大学教授 岸井 隆幸氏<br/>                     ●講演<br/>                     国土交通省都市・地域整備局都市総合事業推進室長 望月 明彦氏<br/>                     (独)都市再生機構東日本支社副支社長 大塚 英史氏</p> | <p>●パネリスト<br/>                     NPOフュージョン長池理事長 富永 一夫氏<br/>                     (株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク代表取締役 西郷真理子氏<br/>                     流山市長 井崎 義治氏<br/>                     富士河口湖町長 小佐野常夫氏<br/>                     国土交通省都市・地域整備局都市総合事業推進室長 望月 明彦氏</p>                   |
| <p><b>中部まちづくりシンポジウム</b><br/>                     ●日 時：平成17年7月12日(火) 13:30~17:00<br/>                     ●開催都市：岐阜県美濃加茂市 ●出席人数：137名<br/>                     ●基調講演<br/>                     (財)民間都市開発推進機構常務理事 小前 繁氏<br/>                     ●事例紹介講演<br/>                     名古屋学院大学教授 古池 嘉和氏<br/>                     NPO伊勢河崎まちづくり衆理事 西城 利夫氏</p>            | <p>●コーディネータ<br/>                     国土交通省中部地方整備局建政部長 春川 真一氏<br/>                     ●パネリスト<br/>                     美濃加茂市長 川合 良樹氏<br/>                     犬山市長 石田 芳弘氏<br/>                     愛知工業大学名誉教授(前彦根市長) 中島 一氏<br/>                     (独)都市再生機構全国まちづくり室長 鳥飼 哲夫氏</p> |
| <p><b>九州観光まちづくりシンポジウム</b><br/>                     ●日 時：平成17年7月25日(月) 14:00~16:00<br/>                     ●開催都市：福岡県福岡市 ●出席人数：111名<br/>                     ●事例紹介<br/>                     北九州市経済文化局門司港レトロ室開発調整課長 奥田 尚弘氏</p>   | <p>●コーディネータ<br/>                     国土交通省九州地方整備局建政部長 久保田 勝氏<br/>                     ●パネリスト<br/>                     (財)福岡アジア都市研究所主任研究員 佐々木喜美代氏<br/>                     別府市長 浜田 博氏<br/>                     小浜町長 松藤 壽和氏</p>  |



## §「品川駅周辺における今後のまちづくりの進め方について」 の中間まとめ ～環境モデル都市の創出をめざして～ を行政が公表

大規模な都市開発が進められている品川駅周辺地区について、国土交通省と東京都と都市再生機構は、当該地区のまちづくりに関する将来像を策定するため、東京工業大学の黒川洸名誉教授を委員長とする「品川周辺地域都市・居住環境整備基本計画策定委員会」を平成16年11月に設置し、計4回の委員会開催を経て、今般「中間のまとめ」を公表した。

品川駅周辺は、国土交通大臣により平成16年8月、都市構造再編の観点から都市基盤施設の整備、面的整備及び拠点形成等の重点的な実施等が必要不可欠な地域（都市・居住環境整備重点地域）に指定され、これを受ける形で本委員会が設置された。

中間報告では、今後予想される大規模な土地利用転換や開発に対応した都市基盤の整備に加え、環境政策に重点が置かれており、国内外から注目されるような環境モデル都市の構築を目指している。その要旨は下記の通りである。

- (1) 今後のまちづくりの将来像として「東京のサウスゲートの形成」、「千客万来の都市づくり」、「環境モデル都市づくり」を掲げ、その実現に向けた整備・開発誘導を進めていく。
- (2) 環境モデル都市の実現に向けて、「総合的な環境技術の導入」や「風の通り道（風の道）の確保」、「魅力ある水辺空間の形成」、「品格ある街並みの形成」などを進めていく。
- (3) 品川駅周辺地域の都市基盤施設については、今後予想される大規模な土地利用転換や開発に対し、東西連絡道路の整備をはじめとする適切な対策を講じていくよう検討を進めていく。
- (4) 品川駅周辺地域の特性を生かした、新たな国際的拠点に相応しい「多層な街」の形成を進めていく。

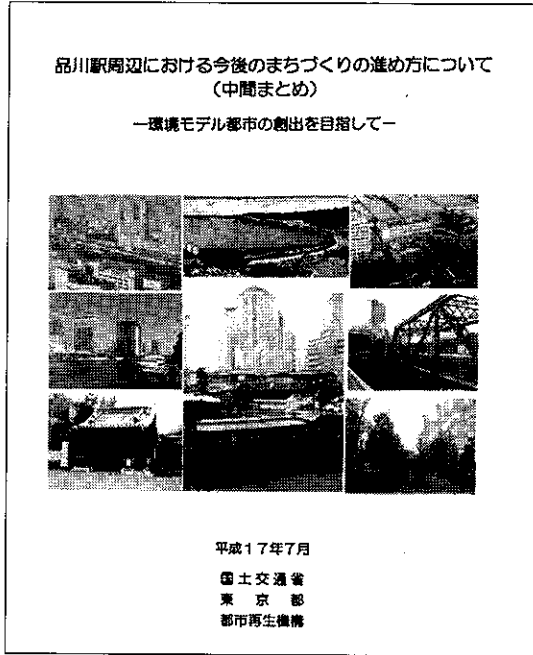
今後は、平成17年度内に本委員会で基本計画をとりまとめた上で、平成18年度以降、都市再生のトリガー（引き金）として早期に事業化を図るべき地区（特定地区）を、東京都が指定する予定となっている。

### 《問い合わせ先》

国土交通省 都市・地域整備局 都市総合事業推進室 03-5253-8111 内線32562  
[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/04/040728\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/04/040728_.html)

東京都 都市整備局 開発プロジェクト推進室 03-5388-3242 (直通)  
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2005/07/20f7s200.htm>

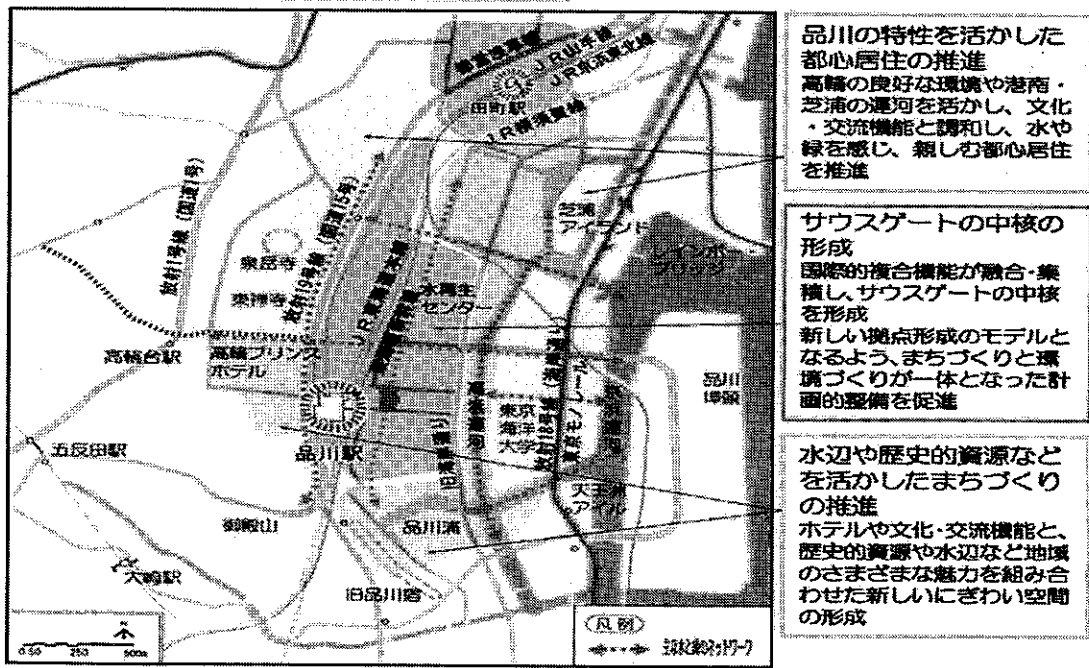
都市再生機構 東京都心支社 都市再生企画部 計画推進第2チーム  
 03-5323-0862



### 【目次構成】

- ◇目的
- ◇品川の歴史と現状
- ◇品川の課題
- ◇これからの品川
  - (1) 東京サウスゲートの形成
  - (2) 千客万来の都市づくり
  - (3) 環境モデル都市づくり
- ◇将来像の実現に向けて
  - (1) 環境モデル都市
  - (2) 土地利用の方向
  - (3) 都市基盤の整備
  - (4) 地域整備の進め方
- ◇今後の予定

### 東京のサウスゲートの形成



土地利用のイメージ図

当財団では、本委員会事務局のお手伝いをさせて頂いているほか、財団会員による提言目的の自主研究会「品川新拠点研究会」も運営しております。  
 <財団照会窓口 稲岡開発調査部長 篠原企画調整部長 03-5976-5860>





## § 東京ビックサイトでのイベントに財団ブースを出展

当財団では、7月13日から3日間、晴海の東京ビックサイトで開催されました(財)日本経営協会主催(後援:国土交通省・経済産業省・総務省)の「自治体総合フェア」に今年も出展いたしました。

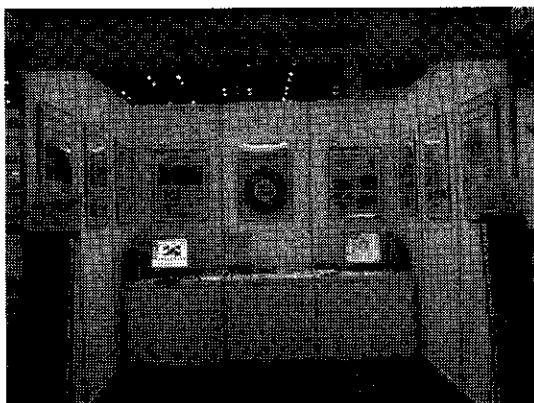
### 【出展パネル】

- ◇(財)都市みらい推進機構の業務内容紹介 ◇まちづくり交付金制度
- ◇低・未利用地有効活用(土地活用バンク・土地活用モデル大賞)
- ◇創造的機能導入に向けた提言型プロジェクト(秋葉原IT拠点形成)
- ◇まちづくり総合支援事業(「愛・地球博」ささしまサテライト事業)
- ◇シティセールス(さいたま)◇地域資源を活用したまちづくり活動支援
- ◇提言型自主研究(品川新拠点研究会:品川観光ゲートウェイ構想)

当財団では、開催趣旨に賛同し企画運営委員として協力させて頂いたほか、全国知事会・全国市長会・日本商工会議所などの諸団体と共に協賛させていただきました。

このフェアは、自治体と民間企業が情報化やまちづくり等をテーマに相互理解を深める趣旨で開催されているものであり、このフェアには、3日間で2万人の来場者があり、私どものブースにも多数の方々にお立ち寄りいただきました。

このフェアでは、展示会との相乗効果を期待して色々な講演会が開催されましたが、国土交通省の望月都市総合事業推進室長にも「まちづくり交付金について」と題してご講演をいただき、多数の方にご参加いただきました。



### (財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2  
アベニュー音羽3階  
電話 03-5976-5860  
FAX 03-5976-5858  
Email kikaku@toshimirai.or.jp

ホームページもご覧下さい  
<http://www.toshimirai.or.jp/>

当財団は、1985年7月に公民連携支援母体として建設省《国土交通省》により設立された都市開発支援財団です。200弱の自治体・民間企業・公益法人に会員としてご支援頂いております。シンクタンク機能からプロデュース機能の拡充を図ってきております。

- ◇都市拠点開発・都市再生支援
- ◇中心市街地活性化支援
- ◇低未利用地有効活用支援 他